

ビジュアルコミュニケーションアドバイザ サンプル問題(解答)

No	問題	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4	解答	説明
1	ビジュアルコミュニケーションの導入効果や活用領域で最もふさわしくないものはどれか	ビデオ会議を利用することで会議のための移動をしないで済むため、交通費などのコスト削減ができる	テレワークにより時間に依存しない働き方が可能になる	災害発生時など交通が麻痺している場合でもBCPを高める手段として利用できる	本社と地方拠点など遠隔地で、教育や幹部講話に利用できる	2	2. テレワークは遠隔業務で使われることが多い(時間→場所などが適当)
2	ビデオ会議端末の構成要素で誤りはどれか	カメラとモニタ	スピーカーとマイク	コーデックと通信制御	画面合成と音声合成	4	4. 一般的に画面合成や音声合成はMCUの機能
3	データ共有方式H.239について正しいものはどれか	ITU-Tで標準化されたビデオ会議向けのデータ共有方式がH.239である	H.239を用いたデータ共有をビデオ会議の途中で開始すると、使用する通信帯域が増加する	H.239を使ったデータ共有では事前に共有するファイルを各端末に転送する	H.239を用いた多地点会議ではMCUがサポートしていれば、端末側はサポートしていなくてもデータ共有が可能である	1	
4	H.323ゲートウェイは、H.323プロトコルと他の通信プロトコルを相互接続する。次の組合せで誤りはどれか	ISDN網のビデオ会議端末とつなぐH.320/H.323ゲートウェイ	SIPプロトコルのビデオ会議端末とつなぐSIP/H.323ゲートウェイ	NGN網のビデオ会議端末とつなぐH.324M/H.323ゲートウェイ	加入者電話網の電話機とビデオ会議をつなぐPSTN/H.323ゲートウェイ	3	3. H.324Mゲートウェイは3G携帯電話との接続
5	代表的な画面解像度で、4CIFに対応するものはどれか	352×288	704×576	1280×720	1920×1080	2	1. CIF、2. 4CIF、3. 720p、4. 1080p
6	ビデオ会議の利用ネットワークに関する要件で正しいものはどれか	映像+音声の通信帯域にプロトコルオーバーヘッドを考慮した帯域の確保が必要	資料共有を行う場合でも資料の共有に利用する帯域は考慮不要	ネットワーク側に利用帯域の上限を設定する機能が必須	MCUもビデオ会議端末との接続形態は1対1であるため、センタで必要な帯域は映像+音声の1通話分を考慮すればよい	1	
7	テレプレゼンスについて述べた文章のうち適切なものはどれか	専用の機器を必要とせず、汎用パソコンのWebブラウザを用いることが一般的である	遠隔地のメンバーとその場で対面しているかの臨場感を提供する技術	サテライトオフィス・在宅勤務など遠隔地での業務中に、「在席」・「離席」など現在の状態を相手に通知する手法である	本格的な普及はN-ISDNサービスが開始された1990年代からである	2	

8	「リップシンク」について述べた文章のうち適切なものはどれか	リップシンクは、受信側デバイスで動画像から話者の口の動きを解析することで実現する	リップシンクを行うことにより通信遅延を縮小することができる	同期ずれを防ぐため、音声と映像では同一のコーデックを利用する	ネットワークの輻輳時に音声パケットと映像パケットの到着時間にずれが発生することが映像と音声の同期が外れる主な要因である	4	
9	ビデオ会議システムの提案・構築についての記載で適切でないものはどれか	イントラネット内の利用と比較して、社外からの利用も想定する場合、ネットワーク・アクセス方法など検討が広範囲に及ぶ	多地点接続を行う場合、MCUや会議端末内蔵の多地点接続機能の利用、各拠点とのフルメッシュ接続を検討する	異なったシステムや端末と相互接続する場合、使える機能が限定されるおそれがある	会議の付加機能として、予約機能・メール自動配信機能などが必要になることもある	2	
10	Web会議について述べた文章のうち適切なものはどれか	専用の設備ではなく、パソコンのWebブラウザや会議用ソフトウェアをインストールして使用する	呼制御プロトコルとして、H.323、SIP、独自のものを使用する	端末間の通信はサーバ/クライアント形態で、会議サービス機能は自営設置形態での提供が多い	通信プロトコルはHTTP、HTTPSを使用し、映像、音声コーデックも標準仕様が多く、他社のWeb会議端末やビデオ会議端末との相互接続に向いている	1	3. ASP形態／クラウド形態での提供が多い、 4. 他社との相互接続には向かない
11	H.323プロトコルについて述べた文章のうち適切なものはどれか	H.323プロトコルは音声(VoIP)専用で、マルチメディアの通信制御には使用できない	IP電話としては主流だが、ビデオ会議では一般的ではない	会議システムとしての各種機能(データ共有、Firewall/NAT超え)が標準化されている	プロトコル構成は、音声部、映像部、呼制御部で構成される	3	4. 呼制御部→システム制御部
12	ビデオ会議システムと他システム連携の提案・構築についての記載で適切でないものはどれか	映像配信システムと連携すると、多数がカメラ画像をリアルタイムに視聴できる	ビデオ会議への一般電話からの参加(音声のみ)は、ゲートウェイ装置などにより実現できる	SIP/H.323ゲートウェイを使用して、ソフトフォン会議と相互接続できる	携帯電話のテレビ電話は独自プロトコルを使用しているため、接続することは出来ない	4	4. ゲートウェイを用意すれば接続可能
13	ビジュアルコミュニケーションの利用形態で誤っている組合せはどれか	利用形態: 1対1 主な用途: 遠隔診療、介護支援	利用形態: 1対n 主な用途: 銀行相談、コンシェルジュ	利用形態: n対m 利用場所: 専用の会議室	利用形態: 1対1 利用場所: 外出先、自宅	2	
14	アノテーション機能について述べた文章のうち適切なものはどれか	ある瞬間には1つの参加者しか表示しない、発言した人に映像を切り替える機能	受信側の映像(口の動き)と実際の音声との同期を取る機能	ビデオ会議で共有する資料の中に文字や注釈を書き込む機能	ネットワークで特定の複数のノードに対して、1つのデータを同時に送信する機能	3	